



士別ロータリークラブ会報

創立1960・3・24 RI第2500地区

vol.35 No.2383

■2011～2012年度RIテーマ：

こころの中を見つめよう、 博愛を広げるために

2011～2012年度RI会長 カルヤン・バネルジー



新日地域交流施設
「和が舎」

画/百瀬達夫

■2011～2012年度士別RCテーマ：

人と人を思いやる 心をもって前進しよう

■例会場/士別グランドホテル

■例会日/毎週月曜日 12:10～13:10

■事務所/士別グランドホテル TEL:(0165)23-1234

■会長/渡辺正一 ■副会長/藤吉敏博

■幹事/伊藤優市

今日のプログラム

第2465回例会 2012年4月23日(月)

■ 4月16日の記録 ■

- 司 会 高山 稔 会場監督
- 斉 唱 奉仕の理想
- 本日の出席 会員51名中 出席者40名 出席率78.43% 修正80.39%
- 本日の欠席 阿達 勇、今井 裕、北村浩史、國森和磨、黒田康敬、興水広志、坂野虎溪、深尾幸夫、細川博司、宮田喜久三郎
- メイクアップ
- ビジター
- ゲスト
- ニコニコBOX 中村徹雄会員(士別市立病院応援隊発足)、鈴木 勉会員(孫誕生)

累計289,000円

例 会 予 定

■4月の予定.....《ロータリー雑誌月間》

- 4月2日(月)/例会・理事会
- 4月9日(月)/例会
- 4月16日(月)/例会
- 4月23日(月)/夜間例会
- 4月30日(月)/休会(法定休日：昭和の日)

■5月の予定.....

- 5月7日(月)/例会、理事会
- 5月14日(月)/例会
- 5月21日(月)/例会
- 5月28日(月)/夜間例会

■会務報告……………渡辺正一会長

●今日、午前中のニュースで原油価格の下落によって18日から日常生活に欠かせない灯油が、1リットル3円前後値下がりしますとの事。当然私も小売価格を下げます。景気の減速が続いている中、私も頑張っています。秋には原油はドバイで1ドル90円ぐらいになると思われます。円高、円安がアメリカ、ヨーロッパの動きではないかと思われます。今日の卓話は日甜士別製糖所長の佐藤和彦会員にお願い致します。

■幹事報告……………伊藤優市幹事

- 美深ロータリークラブよりIMの案内が届いております。IMのテーマは「ロータリークラブに於ける会員相互の親睦とは」というパネルディスカッションです。ネームプレートに参加登録用紙を配布致しましたので、5月7日まで出欠席のご連絡をお願い致します。多くの会員登録をお願い致します。
- 4月10日の「交通事故死ゼロを目指す日」の参加協力ありがとうございました。参加頂きました11名(坂口芳一、山本俊一、藤吉敏博、菊地 博、奈良康弘、高山 稔、織戸俊二、谷 温恵、近井孝義、佐藤元信、伊藤優市 会員)をマークアップ対象として理事会で検討させていただきます。

■次年度報告……………泉谷 勇次年度幹事

- 来週の22日(日)に北見に於きましてペッツ地区協議会が開催されます。今日該当される方にレジメイトを配布致しました。当日午前5時50分、当ホテル駐車場集合です。早い時間となっておりますが、お忘れなくお集まり下さい

■ゲスト紹介

- プログラム委員会……………山本俊一委員長
今日はプログラム委員会の佐藤和彦会員に日甜さんのビートについてお話を伺いたいと思われますので、お願い致します。尚、5月14日に士別市総務部財政課の課長 法邑和浩様にゲスト卓話を5月21日に、かしの木介護サービス代表取締役の鈴木勉会員の会員卓話を予定しております。

■卓 話……………佐藤和彦会員



ロータリーの皆さんを始めとしまして、士別市の皆様には甜菜の振興ということで常日頃いろいろご新栄頂いていることを心より感謝申し上げます。ご存知のとおり最近面積が減少し、輪をかけてこの

2年は不作続きで、尚更はく車が掛かっています。今日はビートについて現状をご報告致します。当社は平成24年6月11日で創立93周年迎え、士別製糖所は昭和11年操業開始で、今年10月に77回目の製糖を迎えます。今から約140年前の明治4年、北海道の開拓史が米国よりてん菜の種子を輸入し、札幌の官園で試作されました。しかし、北海道の大地にてん菜が根付くまでには、その後約50年かかりました。大正3年に第一次世界大戦が勃発、欧州にてん菜の生産高が激減し、国際佐藤相場が暴騰したことが、わが国にてん菜糖業が勃興する直接の契機となりました。今国内で消費されている砂糖というのは、205万トンくらいなんです。その4割が国産糖です。その4割の国産糖の中の8割がてん菜です。残りの2割がサトウキビです。本州からお出でになった方に話を聞くと、砂糖というとサトウキビを思い浮かべられるようです。道内でもてん菜に関してはご存知ない方もいるかと思いますが、去年愛知県の三好市の商工会議所の方が日甜に工場見学にお出でになり工場を見て頂いたんですが、何を忘れてもいいですから、これだけは覚えて帰って下さい。国産糖の8割はビートですということを言った覚えがあります。大正8年6月11日、台湾に本拠地のある帝国製糖は当時の甘味資源増強対策により、「北海道製糖」を設立、翌9年に「旧日本甜菜製糖」が設立され、この二社が当社の前身となります。今年の6月11日で93年になるわけです。ただ、創業から終戦時までの間、てん菜は道庁糖務課の指導を受けて寒冷地農業の期間作物として保護されました。士別の農業の歴史を紐解きましても、ここ10年くらいは冷害というのは見当たらず、最近では水害、温暖化の影響が出ているようです。やはり2、3年置

きぐらいに冷害が発生していたという歴史もあり、当時はビートも寒冷地作物として非常に重宝がられていたのではないかと思います。

昭和11年北海道拓殖計画の実施により、士別工場、磯分内工場が操業を開始致しました。磯分内はご存知のように社網地区に出来まして、知らない方は「いそぶんない」と呼べないということで、今は閉鎖しています。当初明治製糖としては、由仁に新工場を建てたいという意向でしたが、道庁から天北原野の開拓を命じられ、明治製糖士別工場建設となり、その時は士別、名寄、美深で壮絶な誘致合戦があったと聞いています。この20数年の間は天候不順、大恐慌、そして戦禍によって経営は必ずしも順調ではなく、19年に清水工場(今は育苗用の資材を作っています)は軍の要請で航空燃料(ブタノール)工場の指定を受け製糖中止に至りました。士別では今イースト発酵技術を利用してパンの酵母イーストを作っています。

昭和22年道内関係機関により「北海道甜菜糖業審議会」が組織化され、甜菜糖業振興運動が展開されました。また、昭和28年「甜菜生産振興臨時措置法」が制定され、甜菜糖業が法律的に保護される方針が打ち出されました。この政策により、道内に甜菜糖工場の設立の機運が高まり、昭和32~36年の4年間に当社の美幌製糖所を始め、北見、中斜里、道南、清水、本別の各地区に6工場が建設され操業開始、既存の3工場(帯広、士別、磯分内)と合わせて9工場体制で甜菜糖業の発展に努めました。この時期、当社は経営の多角化と体質強化を図るため、27年に下関精糖工場(輸入糖を精製するところ)、37年には帯広飼料工場、清水紙筒工場を建設、操業を開始しました。昭和45年に磯分内工場を廃止し、芽室に大型工場を建設。帯広の工場を閉鎖し、昭和52年に現在の三社(日甜、ホクトウ、ホクレン)8工場(士別、美幌、北見、中斜里、芽室、本別、清水、伊達)になりました。

士別製糖所の甜菜の作付動向としまして、士別は道央に位置しどちらかというと稲作の中心地帯です。昭和53年に過剰米対策の一環として水田利用再編対策が実施、甜菜も補助対象となる特定作物、稲転ビートが増加し、私が50年に入社しましたが56年に9,800ha強ということで、10,000haまで伸びた時期があります。稲転に関しては士別の米

の生産がだいぶ上位にあり、稲転の比率が全耕作面積の6~7割を占めております。この当時約6,800haほどありました。稲転は当時3分の1程度ですが、平成3年転作緩和が実施され、この辺が農政のねこのめ行政といいますか、今回稲作が増え稲転のビートが減少、作付が減少するということがありました。その後指標面積順守、当時は上限を守れ、作り過ぎだよ、砂糖もだぶついてきたから作るのを抑えて下さいということです。最近指標面積が目標になっております。平成19年に自民党政権時代に品目横断的経営安定対策、最近の農政で一代変革だった訳ですが、生産者を保護しようということで、過去の作付実績に沿ってお金をお支払します、後はプラス7割ぐらいですか、後は総当年度の実績で3割ぐらいお支払しますという制度だったんですが、ビートで貰った助成金で他の作物を作る、減反面積が減少し始めた。更に平成23年になって個別所得報奨制度が始まり、民主党が作った訳ですが今のところ制度化されておりません。予算措置で動いています。これは過去実績を止め当年の作付に対してやろうと、残念ながらこの時に畑作4品(じゃがいも、ビート、小麦、大豆)にそば、菜種が加わり、ビートじゃがいもに関しては砂糖、でん粉の国際相場が高く品代が高いので生産者に戻るということで、助成金を減らされた経緯にあります。この時点でだいぶ作付を止めたという方もいらっしゃると思います。農家戸数ですが昭和60年では約4,000戸ありました。昨年は1,058戸、およそ4分の1に減少しております。今制度を見直しているようで新規就農者を募り農業を再生しようとする動きもあるようですが、私が考えますのは既存の農家の人を折角親から伝承された技術があると、そういう意味では既存の農家の人にスムーズに親子間の田畑の受け入れをしてくれる制度になれば有り難いと考えております。

近年の作付面積の減少理由として平成21、22、23年に特に22、23年が非常に作柄が悪く低収量だったので、これも原因になっています。交付金対象収量の上限設定で200万トンの4割が国産、80万トンの8割がビートで、64万トン以上の砂糖が出来ても国は買い上げ致しませんよという制度になっており、出来のいい年は生産者は取れた分は安いビートを作っているということになり、それで生

産意欲が欠けることになります。最近そばが増えており、じゃがいも、ビートが減り、小麦、大豆、特にそばは23年の対比でいきますと道内で3,000haまで増えております。そばを作ると畑が痩せてきますので次の作物を作る場合には非常に問題があるかと思いますが、生産者の方は楽な方に走られるということだと思います。ビートも全量買い上げ、冷害には強い、まともに出来れば反11万、12万が採れると安定作物ではあるんですが、PRがなかなか行き届かないですが、労働対価という意味で春が早い、秋が遅いということでその割には儲からないという意識に結び付くのかと、非常に残念な次第です。士別市に於かれましては23年反8,000円という助成を頂き、23年は総額6,000万円程の助成になりました。今年もどうなるかと思っていましたが、財政が厳しいということで反5,000円の助成を頂き総額で4,100万円で、現時点で目標の600haはクリア出来るのではないかと喜んでいる次第です。ただ士別の面積、今年どん底になればいいかなと思っているのですが、今のところ管内で4,500haの目途が立って参りました。工場の採算を考えた場合には120日程度の操業が欲しいと、逆算しますとha当り60トンと、5,500haぐらいいは欲しいということで今年は平年並みの作柄でも良いと思うんですが、生産者の皆様に良い思いをして頂ければ来年に繋がるのかと思います。遊びではございますが2月にお得意様訪問ということで伊勢に行って参りました。伊勢神宮でお祓いをして参りました。伊勢神宮は12ありまして外宮を回ってから内宮を回るとということで、内宮には天照大神、外宮には豊受大神、農業の神様らしいんですね。そこでお金を包みお祓いを受けて参りました。まだその効果が出ていなくて雪が多くて心配しているんですが、今後の天候に期待して今年が豊穰の秋を迎えて、来年の面積に繋がればと思っております。今後とも皆様に於かれましては1反でも結構ですので土地の持っている方は、自分の土地を持っておられない方は人の土地に、出来れば親戚、縁者に皆さん宣伝して頂き、面積確保に繋げて頂ければ誠に有り難いと思います。今日はPRさせて頂き有難う御座いました。
